

「湯本豪一記念日本妖怪博物館

(三次もののけミュージアム)」が開館します！！

平成31年4月26日(金)、広島県三次市に日本初となる

「湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)」が開館します。

中国地方のほぼ中心にある本市は、3本の川が巴状に合流する部を持ち、秋から初冬にかけては、霧の海が発生する神秘的なまちです。江戸時代、寛永九年(1632)には、広島浅野藩の支藩として三次藩が分知されます。初代藩主・浅野長治(1614~75)、二代・長照、三代・長澄、四代・長経の後、五代・長寔(ながざね)に受け継がれ、三次藩は享保五年(1720)の廃絶まで88年間続きました。

作家、司馬遼太郎先生は、著書「街道をゆく〜芸備の道」で、本市を訪れた際の印象を「はるか古代、鉄をつくるタタラ衆が朝鮮半島から出雲へ渡り、その中で川を上った人々が三次盆地の水と緑あふれる美しい風景を見て、『おお、水村よ。と叫んだかもしれない』と記しています。

山紫水明の地である本市は、また、古くからの妖怪物語の舞台となった地でもあります。その妖怪物語こそが「稲生物怪録(いのものけろく)」です。江戸時代中期の三次町を舞台としたこの物語は、主人公の16歳の少年・稲生平太郎のもとに旧暦7月の30日間にわたって様々な怪異が現れ、怪しげな現象により主人公を脅しますが、それに耐え抜いたという物語です。

「稲生物怪録(いのものけろく)」をきっかけの一つとして、平成28年(2016)に、妖怪研究家の湯本豪一氏とのご縁をいただきました。お話をすることで、湯本氏ご所蔵の、膨大かつ、多彩な妖怪コレクションを一括して本市に寄贈いただく運びとなりました。

これら妖怪関連の資料や妖怪伝承を生かして誕生するのが、「湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)」です。

日本初の、妖怪をテーマとした博物館では、絵巻や浮世絵といった絵画系や、着物や根付、つば鏝、皿といった工芸品や、妖怪像といった彫刻など、多分野にわたる江戸時代から現代までを網羅した様々な資料を展示します。

あわせて、三次発祥とも言える「稲生物怪録」の歴史や展開、派生などをわかりやすく紹介します。

見どころその1

日本の妖怪がわかる！

「日本の妖怪」コーナーでは、古来、伝承としての存在であった妖怪が、描かれることで姿かたちを得て、人々に親しまれていくという歴史の流れを、絵巻、錦絵、工芸品など、さまざまな実物の資料を通して紹介します。資料の中には、恐ろしいだけではなく、かわいい妖怪、面白い妖怪もたくさん登場します。日本の妖怪文化の面白さ、奥深さをぜひご覧ください。

主な資料

「百鬼夜行絵巻」と「デジタル百鬼夜行絵巻」

闇の中どこかへ向かう妖怪の群れを描く絵巻の作品。所蔵の百鬼夜行絵巻から、古典的な図様を伝える作例を展示します。また、展示の実物資料と同じ絵巻を使った「デジタル百鬼夜行絵巻」が展示室の入り口で来館者をお迎えします。

絵巻型スクリーンに映し出された妖怪をタッチすると、その妖怪が絵巻から飛び出します。実物とデジタル展示のコラボレーションをお楽しみください。

「人面草紙」

妖怪が人々に親しまれるようになった江戸時代には、多分野でさまざまなキャラクターが生み出されました。他では類を見ない下ぶくれの人面たちが遊び暮らす様子を描くこの肉筆の冊子本は、江戸の暮らしぶりを伝える資料でもあります。



「百鬼夜行絵巻」(部分) 江戸時代

見どころその2

三次ゆかりの《稲生物怪録》の世界に迫る

《稲生物怪録》は、絵巻や版本、絵本や漫画、小説など、形を変えながらも脈々と受け継がれている、いわば「隠れた大ベストセラー」とも言える物語です。江戸時代の三次を舞台とした物語で、ストーリーや登場人物などを部分的に変えながら、さまざまな形で伝えられ、多くの作品が残されています。展示では、三次市所蔵作品・寄託作品のほか、全国の所蔵機関等の資料を活用し、物語の享受と伝播を紹介します。展示室内には、稲生物怪録関連資料の展示を見ながら、その世界観を楽しめるよう、一部に屋敷をイメージした設えや、絵巻作品を同時に複数並べて展示し、鑑賞いただける工夫をこらした展示台などにより、江戸時代から現代まで成長し続ける物語の魅力に迫ります。

主な資料

「稲生物怪録絵巻」(堀田家本) 三次市重要文化財

初公開：全三巻の展示 ※平成31年4月26日～7月2日まで。

《稲生物怪録》の魅力为全国へと広めたいきっかけの一つでもある絵巻作品。どこかユーモラスに描かれた絵は多くの人を惹きつけます。今回、三巻を同時に展示し、物語の流れを一挙に公開します。



「稲生物怪録絵巻(堀田家本)」(部分)江戸時代

見どころその3

約5,000点の日本最大級の妖怪資料から選り

すぐりの資料を展示

当館の所蔵品の核である湯本豪一コレクションは、氏が長年に渡り私財を投じて蒐集された、質・量ともに世界でも随一の妖怪コレクションです。その内容は、絵巻、屏風、錦絵、版本、衣装、玩具、武具、陶磁器など多岐にわたり、総数は約5,000点にもなります。

この度、開館を記念し、「妖怪文化の精華～湯本豪一コレクションの粋～」を開催します。企画展示室にて、所蔵品の中からコレクションを代表するイッピンを一堂に会して紹介します。美しい妖怪絵巻、極彩色で描かれた妖怪錦絵、謎めいた妖怪の木彫像など、魅力的な資料を数多く展示します。

※会期中に展示替えがあります。

主な資料

「百鬼夜行図巻」狩野宴信

伝統的な「百鬼夜行絵巻」のオマージュ的要素をもちこんだ知的な遊び心のある作品。丁寧な筆づかいで描かれる妖怪の姿かたちや動きが見どころ。

「新形三十六怪撰 源頼光土蜘蛛ヲ切ル図」月岡芳年

襲いかかる土蜘蛛に対峙し、源頼光が刀に手をかけた瞬間を描く、緊張感のある構図の錦絵。土蜘蛛の表情は現代のマスコットやアニメーションに見られるキャラクターのようです。

「妖怪立像・座像」

立像は36体、座像は100体が伝わる木彫の妖怪像。なぜ作られたのか、またそのモチーフもいまだ多くの謎に包まれている作品。今回はその一部を公開します。



月岡芳年
新形三十六怪撰 源頼光土蜘蛛ヲ切ル図
明治25年

湯本豪一氏プロフィール

湯本 豪一（ゆもと こういち）

民族学者・妖怪研究家

1950年 東京生まれ

1977年 法政大学大学院（日本史学）修士課程修了

川崎市市民ミュージアム学芸員、学芸室長を歴任。妖怪に関する資料蒐集、研究を行うかたわら、法政大学大学院などで妖怪や日本文化について教鞭を取る。妖怪に関するもののほか、多数の著書を執筆。

インタラクティブな作品を体験しながら妖怪について学べる「チームラボ 妖怪遊園地」を常設展示

インタラクティブな作品を体験しながら妖怪について学べる「チームラボ 妖怪遊園地」を常設展示します。

インタラクティブな作品を体験しながら学ぶことで、妖怪の存在をより身近に、面白く感じられる空間「チームラボ 妖怪遊園地」には、「お絵かき妖怪とピープル」、「妖怪が住まうテーブル」、「妖怪カメラ powered by teamLabCamera」を展示します。

また、エントランスホールには、チームラボの「Digital Collection Wall（デジタルコレクションウォール）」による、「デジタル妖怪大図鑑」を展示。大画面でたくさんの妖怪を体感できるギャラリーになっており、大型タッチモニターには、空間いっぱいになんと妖怪が現れます。気になる妖怪の写真にタッチすると詳細を見ることができるので、より気軽に妖怪に触れるきっかけをつくり、新しい発見と学びを生み出します。

展示詳細：https://www.team-lab.com/yokai_park

<チームラボ 妖怪遊園地>

お絵かき妖怪とピープル / *Sketch Yokai & People*

teamLab, 2019, Interactive Digital Installation



この草原は、みんなの描いた妖怪たちとピープルが集まる広場です。紙に自由に、妖怪たち（河童、天狗、人面）やピープル（男の子や女の子）を描きます。すると、描いた絵に命が吹き込まれ、目の前の巨大な草原で歩き出します。

妖怪たちやピープルに触ると、びっくりして、様々なアクションをとります。

妖怪が住まうテーブル / A Table where Yokai Live

teamLab, 2019, Interactive Digital Installation



このテーブルは、小人たちと妖怪たちが住んでいるテーブルです。

小人たちはテーブルの中で走り回っていて、こちらには気付きません。

しかし、テーブルの上に手を置いたり物を置いたりすると、小人たちは気付いて、飛び乗って来ます。

小人たちと遊んでいると、妖怪たち（カエルつづら、九尾の狐、五日市の雷獣）が現れて一緒に遊びだします。たくさんの物を置くことで、小人たちと妖怪たちは大喜びします。

妖怪カメラ / Yokai Camera

teamLab, 2010-, Interactive Installation



「チームラボ 妖怪遊園地」に常設する「妖怪カメラ」では、妖怪に囲まれて撮影できるフレームや、『稲生物怪録』のように様々な妖怪に驚かされるフレーム、また撮影者が河童に変身していく動画フレームなど、撮影を楽しみながら妖怪を知るきっかけとなる計3種類のオリジナルフレームがあります。

撮影した写真や動画は妖怪カメラの Facebook ページにアップロードされるだけでなく、LINE 経由でのダウンロードも可能で、Instagram などの SNS にも自由にシェアすることができます。

・妖怪カメラ 公式 Facebook ページ：<https://www.facebook.com/Yokai.Camera/>

・妖怪カメラ LINE ID : @sqt7157d

・チームラボカメラ：<https://www.team-lab.com/teamlabcamera>

<エントランスホール>

デジタル妖怪大図鑑



「デジタル妖怪大図鑑」は、チームラボのタッチパネルサイネージ「Digital Collection Wall (デジタルコレクションウォール)」によって、大画面でたくさんの妖怪を体感できるギャラリーになっています。

大型タッチモニターには、空間いっぱいに次々と妖怪が現れ、前を通過する来館者に反応して興味を惹きます。気になる妖怪の写真にタッチすると、詳細を見ることができるので、より気軽に妖怪に触れるきっかけをつくり、新しい発見と学びを生み出します。また妖怪の種類や生息する場所、姿形など、興味を持ったカテゴリを選んで、関連する妖怪を次々に見ていくことができます。

デジタルコレクションウォール：<https://www.team-lab.com/digital-collection-wall/>

基本情報

住所： 広島県三次市三次町 1691 番地 4

開館時間： 9:30 ～ 17:00

休館日： 水曜日（休日の場合は翌日）

料金： 一般 600 円（480 円）

高校・大学生 400 円（320 円）

小・中学生 200 円（160 円）

※（ ）内は 20 人以上の団体料金

構造： 鉄骨造 2 階建

延床面積： 1,132 ㎡

施設： 1 階 エントランスホール、受付、ミュージアムショップ
コインロッカー

展示室（常設展示室・企画展示室・体験型展示室）

2 階 会議室、研修作業室等

館内平面図



アクセス

【広島から】

高速バス 広島バスセンター → 三次もののけミュージアム 約 1 時間 20 分

自動車 中国自動車道 → 三次 IC 経由 約 1 時間 10 分

J R 芸備線 広島 → 三次

※現在 30 年 7 月豪雨災害の影響により一部区間で運休し
代行バスによる運行です。

詳しくは J R 西日本のホームページ等でご確認ください。

【広島空港から】

高速バス 広島空港 → 三次駅前 約 1 時間 20 分

【福山から】

J R 福塩線 福山駅 → 三次駅 約 2 時間 45 分

自動車 山陽道 → 中国横断自動車道尾道松江線経由 約 1 時間 15 分

【三次駅から】

自動車 約 5 分 徒歩 約 30 分

※所要時間はあくまで目安です。交通事情等により所要時間は変動します。

お問い合わせ

三次市総務企画部企画部

電話 0824-62-6408 ファクシミリ 0824-62-6137

※4月26日以降は

湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）

電話 0824-69-0111 ファクシミリ 0824-69-0112